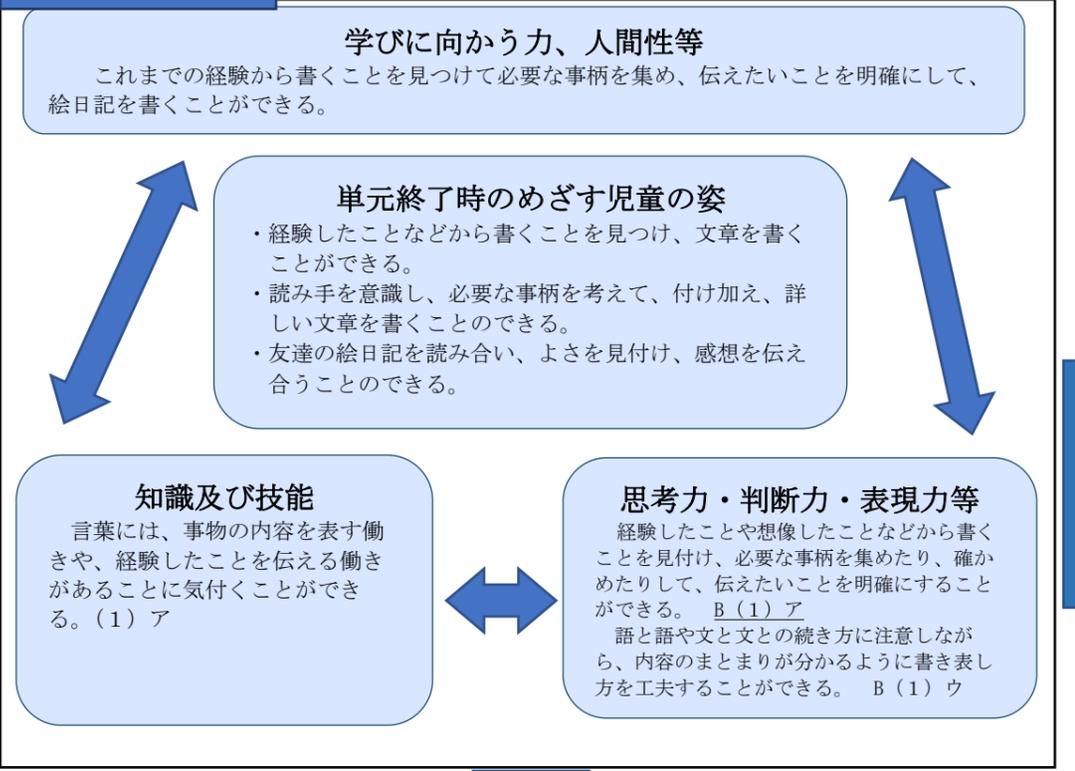


[単元を貫く問い] いちばん伝えたいことをえにつきであいてにつたえるにはどうすればいいかな。

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)
 [第1学年]
 ◆語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 ・学校での出来事を家の人に伝える文章を書く。(こんなことをしたよ)

本単元の目標



この単元からつながっている領域の付きたい力 (◆)
 [第3学年及び第4学年]
 ◆相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする力。
 [第5学年及び第6学年]
 ◆目的や意図に応じて感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力。
 [中学校第1学年]
 ◆目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めたことを整理し、伝えたいことを明確にする力。
 [中学校第2学年]
 ◆目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力。
 [中学校第3学年]
 ◆目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする力。

他教科等との関連

- ・図工 (心に残ったこと絵を絵に描く活動)

言語活動 → 思ったことや伝えたいことを絵日記に書いて伝える活動

<p>【1時間】</p> <p>(1) 6年生に学校での出来事を知らせるという学習課題を確かめるとともに、4月からの学校生活を振り返り、どんなことを書きたいのかを決める。(本時) 【思①】</p>	<p>【3時間】</p> <p>(2) 絵日記の特徴について知るとともに、伝えたいことの絵を描く。【知①】</p> <p>(3) モデル文と比べながら、1時間目に作った文章が詳しい文章になるように書き足す。【思①】【思②】</p> <p>(4) 文章を清書し、絵日記を完成させる。【思②】</p>	<p>【1時間】</p> <p>(5) 完成した絵日記を友達と読み合い、感想を伝え合う。【主①】</p>
---	---	---

働かせている見方・考え方を働かせている児童の姿

<ul style="list-style-type: none"> ・一番伝えたいことと、伝えたい気持ちがぴったりか考えている姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えるために、経験した出来事を詳しく書いている姿。 ・書いた文章が相手に伝わるか、読み直している姿。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した絵日記を友達と読み合い、よいところを見付け、感想を伝え合っている姿。
---	---	---

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア	① 「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ② 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ	① 進んで、書くことを見付け、必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって絵日記を書こうとしている。

児童の実態と指導観
 この単元における重点指導事項は、学習指導要領における「思考力・判断力・表現力等」の「B書くこと」(1)ア「経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり、確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」である。学校での生活を振り返り、経験したことの中から書きたい題材を見付ける力、題材について必要な事柄を集めて書く力を身に付けることをねらいとしている。
 本学級の児童は、自分の意見を持つことのできている児童も多くいるが、学級全体として間違ふことへの抵抗感が強く、自信がないと発表することが難しい。児童はこれまでに、ひらがなの学習、「こんなことをしたよ」の学習を通して、ひらがな、清音、濁音、半濁音の表記、助詞「が」「は」「を」「へ」の正しい表記を考えて文章を作ったりしてきているが、助詞の使い方には個人差が見られる。
 本単元では、グループで話し合う活動を通して、自分が一番伝えたいことを明確にし、一番伝えたいことは何なのかを常に意識させながら、指導していきたい。また、絵日記を書く際に、これまでの学習を生かしながら、語と語や文と文の続き方に気を付けて文章を書き、自分の伝えたいことが相手に伝わる文章を書くことができるようにしていきたい。

【本時の目標】 書くことを一つ決め、その時の様子を具体的に思い出し、簡単な文章を作ることができる。(1/5)

【本時における言葉による見方・考え方】 一番伝えたいことと、その出来事を伝えたい気持ちがぴったりであるか考えている。

えにつきをかこう

6ねんせいに伝えたいこと

- ・ えんそく
- ・ いものつるさし
- ・ たし算ができるようになった

めあて

6ねんせいにつたえたいことを1つきめよう。

- ・ たのしかった
- ・ うれしかった
- ・ がんばった
- ・ おどろいた
- ・ おもしろかった
- ・ くやしかった
- ・ はじめてした

わたしは、いものつるさしをしました。

たのしかったです。

ふりかえり

- ・ 6ねんせいに伝えたいことをきめられたよ。
- ・ つぎは、きょうかいたぶんをくわしくしたい。



◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫
6年生に一番伝えたいことを決める学習活動で、グループで質問しながら出来事を思い出す場面を設定する。

◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て
グループでの対話を行うことで、自分が一番伝えたいこと伝えたい気持ちが合っているかを考えられるようにする。また、選んだ出来事と、その時の気持ちがどうかを吟味できるようにする。



1. 今日の学習に見通しを持つ。
6年生のメッセージ(入学して今までにどんなことがあったか知らせてほしい)を児童に見せ、学習意欲を高め、学習課題をつかみ、めあてを設定する。

ICTの活用
6年生のメッセージを再度、児童に見せ、学習意欲を高める。(大型テレビ)

T:みんなは6年生にどんなことを伝えたいですか。
C:遠足のことを伝えたいな。
C:勉強を頑張っていることを伝えたいな。
C:朝顔を育てたことについて伝えたいな。

めあて
6ねんせいに伝えたいことを、1つきめよう。

2. 話し合いを通して、伝えたい出来事についてのエピソードを具体的に挙げる。
T:伝えたい出来事について班で話し合いましょう。
C:私は、たし算ができるようになったことを伝えたいな。毎日、学校で練習したよ。今は、すらすら言えるよ。
C:僕は、遠足のことについて伝えたいな。初めていった遠足で楽しかったよ。
C:私は起震車体験のことを伝えたいな。怖かったよ。

3. 伝えたいと思った理由について考える。
T:どうして、この出来事を伝えたいと思ったの?
C:遠足の出来事が楽しかったからです。
C:たし算を頑張ったからです。

4. 知らせたい出来事と気持ちの入った付箋をはり、文章を完成させる。
T:文章を完成させましょう。
C:わたしは、いものつるさしをしました。楽しかったです。
C:ぼくは遠足にいきました。うれしかったです。

5. 学習を振り返る。
T:学習の振り返りをノートに書きましょう。
C:6年生に伝えたいことを決められました。
C:今度は、今日書いた文をもっと詳しくしたいです。

<本時で目指す児童の姿>
・6年生に伝えたい出来事と気持ちが書けている姿。

〔指導上の留意点〕
・書きたいことが思いつかない児童には、写真を見せたり、今日の登校時や休み時間等にしたことを質問したりして、言葉を引き出すようにする。

〔指導上の留意点〕
・どんなことをしたか、心に残ったことは何か等、話す視点を与え、班で話せるようにする。

〔指導上の留意点〕
・伝えたい気持ちが複数あり、決められない児童には、「6年生に伝えたいことを1つきめる」という本時のめあてに戻り、どちらか伝えたいものを問うことで、1つに決められるようにする。

〔指導上の留意点〕
・できた文章と話した内容とを比べ、もっとつけ足したいという気持ちを高められるようにする。

【・思①】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言)